

事業所名

アートキッズ療育品川

支援プログラム

作成日

R7年

1月

16日

法人（事業所）理念	THE BORDERLESS WORLD. ～「障害」という、線引きをなくす～ 好きを 強みに帰る児童発達支援サービス							
支援方針	* 個々に合わせて5領域に沿った支援プログラムを提供する * 「できた」を積み重ね、自己肯定感を持てるようにしていく。 * 大人と1対1のプログラムの中で、社会に出た時や就学を見据え、スモールステップで発達を促していく							
営業時間	9時	30分	から	18時	30分	まで	送迎実施の有無	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごせるよう落ち着いた環境の提供 ・健康な生活の基本となる姿勢保持等の支援 ・身の回りを清潔にし、水分補給のタイミング等生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援 など 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚、聴覚、触覚、前庭覚、固有受容覚の感覚を十分に活用できるよう、プログラムを工夫した支援 ・バランス遊びや体幹を使う活動による運動機能の向上やストップ動作等の自己調整 ・感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援 ・微細運動による指先の感覚や目と手の協応を促す ・興味のあることを模索し、楽しく遊べるよう支援 など 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援 ・机上活動（間違い探しや必要なもの探し出す等）ではよく見て考えることを促し認知から行動が出来るよう支援 ・結果だけではなくプロセスを楽しめるような環境づくり ・模倣構成等の活動を通して数量、形の大きさ、重さ、色の違い等を習得したり、状況や相手に合わせるといった行動が出来るよう支援 ・物の形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図り、認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援 など 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を引き出すような遊びをとおし、気持ちを代弁したり要求を伝えてもらう支援 ・遊びを通してコミュニケーションを取り、他者との関りを持てるような支援 ・話し言葉や指さし、具体物、多様なコミュニケーション手段を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を理解し表出する支援（指示理解の支援）など 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の順番や回数、時間を一緒に決めてから取り組むことで見通しを持てるよう支援 ・遊び等を通じて人の動きを模倣するなどにより、社会性や対人関係の芽生えを支援 ・感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊び、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担やルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援 ・自分の好きな事、苦手な事など、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援 など 						

<p>家族支援</p>	<p>来所時に健康状態等の確認をする。療育の様子をいつでも見ていただけることを伝えていく。その日の療育の内容・目的・状態（良かったこと・課題）等を保護者に伝えていく。保護者から相談がある場合は、話を聴き、事業所でできることを考えていく。</p>	<p>移行支援</p>	<p>小学校入学や転園等、保護者から求められた場合は、相談支援事業所にも相談しながら、小学校や転園先に情報提供をしていく。また、小学校や転園先で必要と思われる支援をお子さんの発達段階やと特性を考慮しながら療育プログラムに入れていく。</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>保護者のご希望があり、保育園からも許可がある場合は、保育園を訪問したり保育園の様子・事業所の様子を相互に伝え合う。</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>社内研修（虐待防止・感染症予防等）・社外研修（オンライン等）への参加を促す。</p>
<p>主な行事等</p>	<p>当面、季節に合わせて療育内で制作を行い、室内に飾る等していく。</p>		